



白球と世界への夢を 追いつける野球少年



「野球」。多くのファンを集めるプロ野球、夏の風物詩となっている高校野球、そして最近では本場アメリカのメジャーリーグでの日本人選手の活躍。野球は、日本でも身近で人気のあるスポーツの一つだろう。
多くの子どもたちが、クラブ活動や学童チームなどで白球を追いかける光景も、市内ではよく見られる。そんな中、今年8月にアメリカで開催された世界大会に日本代表チームの一員として参加した少年が市内にいる。依藤知憲君、彼もまた野球の魅力に取りつかれた一人。彼の野球に対する思いを語ってもらった。

「野球は、興味を持っていないくても観戦したり、プレーしたりして楽しめるところが僕は好きです」。少しはにかみながら野球の魅力について話してくれた依藤君。一見普通の野球少年だが、彼は世界の頂点に立った日本代表チームの一員だ。

依藤君が野球を始めたのは小学校3年生のとき。父や兄の影響で、自然と野球をするようになった。「小学生の時は、お父さんがチームの監督だったんです。普段は優しいのに、野球をしているときはとても厳しかったです」と当時を思い出しながら話してくれた。

現在、依藤君は大田原ボーイズに所属し、二塁手をしている。「実は、本当にやってみたくらいは、捕手なんです。肩には自信があるので鋭い送球をしたり、周りを見ながら指示を出して、みんなを支えてみたいんです」と今後の目標を話してくれた。
また、守備以上に得意なのが打撃。今までこなしてきた練習に自信を持っているので、バットを握った瞬間に打てるかどうか分かるという。家での練習

が重要だと話す依藤君だが、試合前だけでなく通常の練習の前でもイメージトレーニングを欠かさず、気持ちを切り替えて野球に臨んでいることも上達の秘訣なのかもしれない。
野球少年なら一度は憧れる甲子園。依藤君ももちろん甲子園出場を夢見ている。高校野球で使用されている硬式球に慣れるために、依藤君は現在のチームに入ったのだとか。計画を立てて確実に目標を達成しようとする彼の性格が伺える。また、練習でも一週間ごとに目標を立てて、それを達成できるように励んでいる。

そんな彼の努力が認められて、今年8月に米国ミズーリ州で行われた2017カル・リブケン12歳以下世界少年野球大会に日本代表チームの一員として出場。*24チームが世界一の座をかけて火花を散らす中、見事その頂点に立った。「日本代表になったこと自体夢のようでした。今まで経験したことがない人工芝の球場で試合をしたり、外国の選手はみんな伸び伸びと楽しそうにプレーしていて、そ

※今回の大会では、日本・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・プエルトリコ・ドミニカ・メキシコの各国代表と、アメリカの16州の代表チーム、合わせて24チームが出場した。

一步一步確実に 夢に向かって歩み続ける



全国から集まった日本代表チームのメンバー。大切な仲間であり、ライバルだ



世界大会の優勝メダル。依藤君の大切な宝物



ひょうどう ともりの
依藤 知憲 君 (13)

西那須野中学校 1年。
好きな教科は体育と数学。計算を得意とする文武両道の少年だ。